

マイナス金利の影響が生命保険を直撃！  
これから保険加入を検討するなら、2017年3月末までに！

◆保険の金利は予定利率

これまで続けてきた保険から保障内容が充実した新しい商品への切り替えを勧められたとき、「保険を切り替えたほうがよいか？」迷うところです。  
そこで判断を誤らないためのポイントになるのが「予定利率」です。

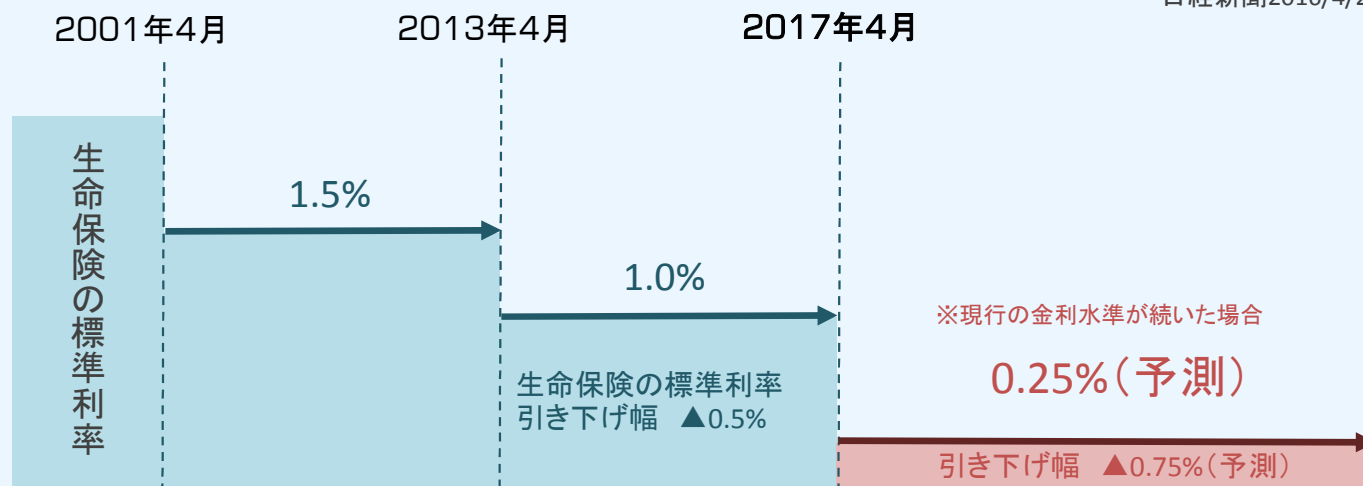
【予定利率】

- ① 予定利率とは、保険会社が加入者からの保険料を運用して得られる「運用利回り見込」のことです。一般的には、予定利率が高ければその分保険料は安くなり、低ければ保険料は高くなります。
- ② 予定利率は加入した時期によって異なります。以前に加入した保険ほど、予定利率が高く、現在は以前に比べて低い利率となっています。  
※保険の予定利率は、他に例えると銀行の預金金利のイメージです。
- ③ 予定利率の高低による保険料等への影響は、返戻金が貯まるタイプ（逓増定期保険や長期平準定期保険など）の「貯蓄性保険」と呼ばれる保険ほど大きい。

◆2017年4月1日より標準利率引き下げ※1

マイナス金利の影響により、2017年4月に金融庁が平準払保険の標準金利を引き下げることが確実視されています。これにより、各保険会社の定める運用利回り（予定利率）も引き下げが予測されます。

※1 日経新聞2016/4/20



◆前回2013年の予定利率引き下げ時は  
保険料が値上がり・解約返戻率がダウンしました

▽前回、2013年4月料率改定の影響

保険種類	保険料	解約返戻率	条件
長期定期保険 A保険会社	約12% 値上がり	約6% ダウン	40歳・男性・1億円 解約返戻率ピーク23年後
逓増定期保険 B保険会社	約4% 値上がり	約3% ダウン	55歳・男性・1億円 解約返戻率ピーク10年後

- ① 前回、2013年4月1日、金融庁が12年ぶりに平準払保険の標準利率を引き下げ。
- ② その影響により、法人活用メリットが高い逓増定期保険・長期平準定期保険など、主要保険会社で生命保険料の値上がり・解約返戻率ダウンが続出しました。

◆2017年4月以降の新規契約では・・・

今回の標準利率の引き下げ幅は、前回の1.5倍程度が予測され、前回以上の影響が出るものと思われます。

特に解約返戻金が貯まるタイプ（逓増定期保険や長期定期保険、他）の保険は、解約返戻率で大きな影響を受けますので、2017年3月までにご検討下さい！

逓増定期保険：解約返戻率 3～5%ダウンが予想されます

長期平準定期保険：解約返戻率 6～10%ダウンが予想されます



ご安心ください！  
すでに加入されている保険は、  
影響はありません

【お問合せ先】

成長支援コンサルティング株式会社  
〒141-0021 東京都品川区上大崎3-1-1 JR東急目黒ビル16F  
TEL : 03-6417-9628  
URL : <http://hoken.seityo-sien.com/>